

科目名	がん看護学演習 I Health and Illness Nursing Seminar I
授業形態	演習（レクチャーと討論）
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時限等	秋AB学期 木曜1・2時限
実施場所	共同利用棟B 204
単位数	2単位
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 山下美智代 Yamashita Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	1 主要科学雑誌やon lineの検索システムを用い、最新の論文の中から読むべきものを選択したうえ、その論文の内容を理解し、その概要を定められた時間内で他の学生に説明することができる。 2 他の学生が選んだ論文を事前に読むとともに説明を聞いて理解し、疑問点や当該研究の看護上の意義、看護実践の中での位置づけについて討論することができる。 3 危機介入モデルおよび認知行動療法について説明できる。 4 病名・予後告知、治療の選択、診断、治療に伴う援助法および症状緩和などに関する事例を紹介し、危機介入モデルおよび認知行動療法を活用して事例をアセスメントし、討論することができる。 5 アセスメントに基づいて、危機介入モデルおよび認知行動療法を活用した援助方法について討論することができる。 6 危機介入モデルおよび認知行動療法を活用した援助を系統的に提供する方法について検討することができる。
他の授業科目との関連	健康障害看護学特論 I
履修条件	本科目を履修するには、健康障害看護学特論 I を受講していることが必要。※1～4はがん臨床指導者プログラムのeラーニングによる授業であるため、視聴に必要な手続きをとること。
授業概要	がん患者や家族によくみられる問題をアセスメントし援助方法を導くために、専門的ながん看護を実践する上で基盤となる主要理論を用いた援助プログラムについて探求する。また、その主要理論を活用しながら、がんがもたらすあらゆる苦痛症状及び苦痛を包括的に理解し、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合して適切に提供する能力を高める。
キーワード	危機モデル Crisis Theory、認知行動療法 Cognitive Behavior Therapy、看護実践 Nursing Practice

<p>授業計画</p>	<p>1(10月3日)危機状態にあるがん患者の理解①※ 2(10月3日)危機状態にあるがん患者の理解②※ がん患者と家族が危機に陥りやすい局面について考えたうえで、理論的背景を含めながら危機理論についての理解を深める。(牟田・山下)</p> <p>3(10月10日)危機状態にあるがん患者についての研究論文のクリティーク① 4(10月10日)危機状態にあるがん患者についての研究論文のクリティーク② 危機状態にある患者・家族を対象とした、アセスメントや援助方法に関する研究論文を詳読し洞察する。(牟田・山下)</p> <p>5(10月17日)危機状態にあるがん患者の事例紹介① 6(10月17日)危機状態にあるがん患者の事例紹介② 危機状態にある患者・家族をアセスメントし援助計画を立案するために、事例を整理しプレゼンテーションする。(牟田・山下)</p> <p>7(10月24日)危機状態にあるがん患者のアセスメント① 8(10月24日)危機状態にあるがん患者のアセスメント② 危機状態にある患者・家族を危機理論を活用しながら分析し、その利点や課題について話し合う。(牟田・山下)</p> <p>9(10月31日)危機状態にあるがん患者に対する援助計画の立案① 10(10月31日)危機状態にあるがん患者に対する援助計画の立案② 危機介入モデルを活用して作成した援助計画についてプレゼンテーションし、その妥当性について議論するとともに評価方法について検討する。(牟田・山下)</p> <p>11(11月14日)がん患者が直面する困難な状況の理解① 12(11月14日)がん患者が直面する困難な状況の理解② 著書や論文に基づいて認知行動療法について調べ、その内容を理解する。認知行動療法の視点から、がん患者が直面する困難な状況を取り上げ、討議する。(水野)</p> <p>13(11月21日)困難に直面するがん患者への援助に関する研究論文のクリティーク① 14(11月21日)困難に直面するがん患者への援助に関する研究論文のクリティーク② 困難に直面するがん患者への援助のひとつとして、認知行動療法を用いた研究論文のクリティークを行い、その内容を討議する。(水野)</p> <p>15(12月5日)困難に直面するがん患者に対する援助介入のための事例紹介① 16(12月5日)困難に直面するがん患者に対する援助介入のための事例紹介② 困難に直面するがん患者への認知行動療法を用いた援助を検討するために、困難事例を作成し、問題とその要因、解決目標についてプレゼンテーションを行う。(水野)</p> <p>17(12月12日)困難に直面するがん患者への介入目標の設定① 18(12月12日)困難に直面するがん患者への介入目標の設定② 認知行動療法を用いた援助介入例を提示した上で、健康問題に対応した介入目標を設定する。(水野)</p> <p>19(12月19日)困難に直面するがん患者への援助計画の立案① 20(12月19日)困難に直面するがん患者への援助計画の立案② 認知行動療法を用いた具体的な援助計画を発表し、討議によってその内容を認知行動療法の特徴や目的に照らし合わせて評価する。(水野)</p>
<p>学修時間の割り当て及び授業外における学修方法</p>	<p>演習(%) 危機理論および認知行動療法について各授業で発表することが必要になるため、e-ラーニングや教科書、レビュー論文等で得た知識を基に、理解を深め、事前に資料を作成する。また研究論文のクリティークを行うためには、事前に各自で文献を選択し理解し、その内容を他者に伝えるための資料を準備する必要がある。</p>

成績評価方法	<p>行動目標1～6を指導に従って大旨できていればC(30点)と判定する。2、4、5について積極的に行っていると判断されればB(31-39点)と判定する。行動目標の3および6は、発表や討論状況、作成した資料を基に理解度を評価し、優れていると判断されればA以上(40-50点)と判定する。1-10回と11-20回を各50点満点とし合計点をもって最終の評点とする。</p>
教材・参考文献・配布資料等	<p>(教科書) 指定しない。 (参考書) 『地域精神衛生の理論と実際』 『Crisis Intervention—Theory and Methodology』 『看護における危機理論・危機介入：フィンク/コーン/アグイレラ/ムースの危機モデルから学ぶ 第2版』 『認知行動療法トレーニングブック』 他、適宜紹介する。</p>
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	<p>わからないことは、その場で質問し解決すること。徹底的に科学的、論理的、厳密な議論を行うこと。</p>